2022年度の評価に係る事例報告

九州ルーテル学院大学
学長補佐（点検・評価）
香﨑智郁代

人を学ぶ。人から学ぶ。
Kyushu Lutheran College

目次

感恩奉仕
Gratitude and Service

1　九州ルーテル学院大学について

2　内部質保証システムとその有効性
・内部質保証体制等の仕組みの全体像
・各組織の権限と役割、連携

3　基準２と基準４の連関
・学習成果の測定の取組、目的、成果
・内部質保証における学習成果測定の取組の位置付け

4　今後に向けて

5　大学評価申請、実地調査に向けた準備

九州ルーテル学院について

◆設立の経緯

１９０８年（明治４１年）、北米ペンシルベニアのルーテル教会において、「日本に女子の学校を」と５ドルの献金がなされた。このことは、多くの人々の関心を呼び、日本で活動していた女性宣教師や女性信徒たちの祈りと要望によって、女子教育の場を設ける運動へと大きくふくらんでいった。そして１９２６年（大正１５年）、この献金に託された夢が実現する形で、本学院の前身である九州女学院が誕生した。

九州ルーテル学院大学について　本学の概要

感恩奉仕
Gratitude and Service

①開学

九州女学院短期大学
開学
（～1998年3月まで）

②九州ルーテル学院
大学開学
人文学部人文学科
定員150名（男女共学）
臨床心理学科の設置

③大学院開学
人文学研究科
障害心理学専攻
（修士）（定員5名）

④ビジョン2014策定
第１期中期計画・
中期目標を 策定

⑤ビジョン2020策定
第２期中期計画・
中期目標を策定

⑥大学院

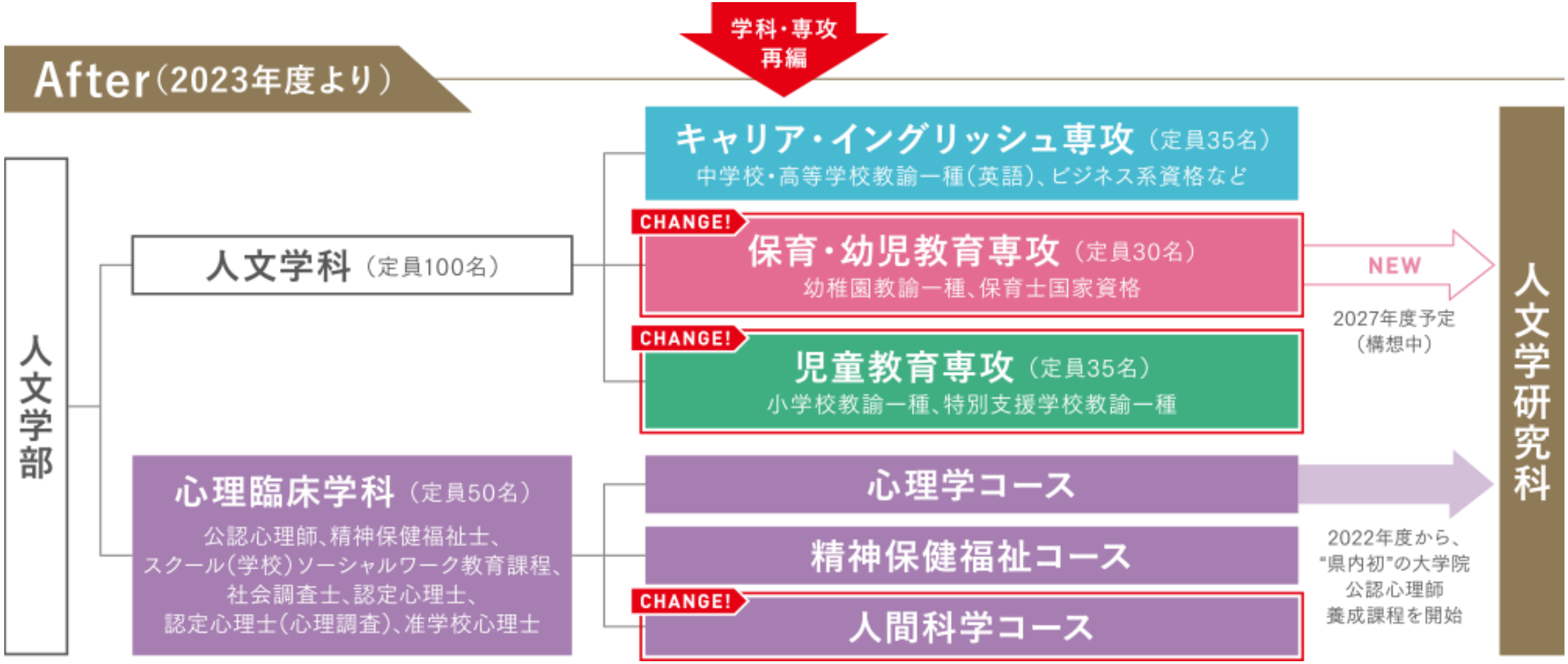
公認心理師養成課程
を開設

⑦学科・専攻等再編
こども専攻を保育・幼児
教育専攻、児童教育専攻
に変更。心理臨床学科
（入学定員50名）に変更

1975年　1997年　2006年　2014年　2020年　2022年　2023年・・・

九州ルーテル学院大学について　本学の概要

感恩奉仕
Gratitude and Service



九州ルーテル学院大学について　基本理念

感恩奉仕
Gratitude and Service

◆建学の精神
校訓「感恩奉仕」に則ったキリスト教主義の人格教育

◆教育研究
幅広い教養教育（リベラル・アーツ教育）と専門領域における高度な教育研究

◆社会への貢献
福祉と社会・文化の向上に資する人材の育成

九州ルーテル学院大学について　目的及び使命

感恩奉仕
Gratitude and Service

◆大学

キリスト教の精神を基盤にして、教育基本法及び学校教育法の定めに則り、「感恩奉仕」の学風のもとに、深く専門の学芸を教育研究し、職業及び社会生活に必要な教育を施し、あわせて情操豊かで国際性に富む全人的な人間性を滋養し、もって広く福祉と社会・文化の向上に資する人材を育成する。

（大学学則ー目的及び使命より）

◆大学院

建学の精神に則り、専門的な理念を教授し、精深な学識と研究能力を養い、もって人類の平和及び文化と福祉の発展に寄与する。

（大学院学則ー目的より）

九州ルーテル学院大学について　教育目標

感恩奉仕
Gratitude and Service

グローバルな視野とボランティア精神を培い、専門に関する基礎を身につけバランスのとれた判断のできる、人間性が豊かで、対人的配慮を有した人材の育成を図ります。

•志を高く持ち、継続的に努力する人

•確かな倫理感を持ち、社会・文化の向上に貢献する強い意志を有する人

•本学の理念と特色を理解し、学ぶ意欲の強い人

◆中長期計画に基づく質向上の取組

第1期中期目標・中期計画【ルーテルビジョン2014】（2014～2020）

8つの事項：教育、大学院、研究、募集、就職・進路、社会貢献、経営基盤、教育研究環境

第2期中期目標・中期計画【ルーテルビジョン2020】（2020～2029）

8つのビジョン：人間形成、教育、学生の受入れ、学生支援、研究、国際感覚、地域貢献、経営基盤

内部質保証の体制等の仕組み

感恩奉仕
Gratitude and Service

◆新たな内部質保証システムの構築（2019年～）

「九州ルーテル学院大学内部質保証の方針」策定（2019年）

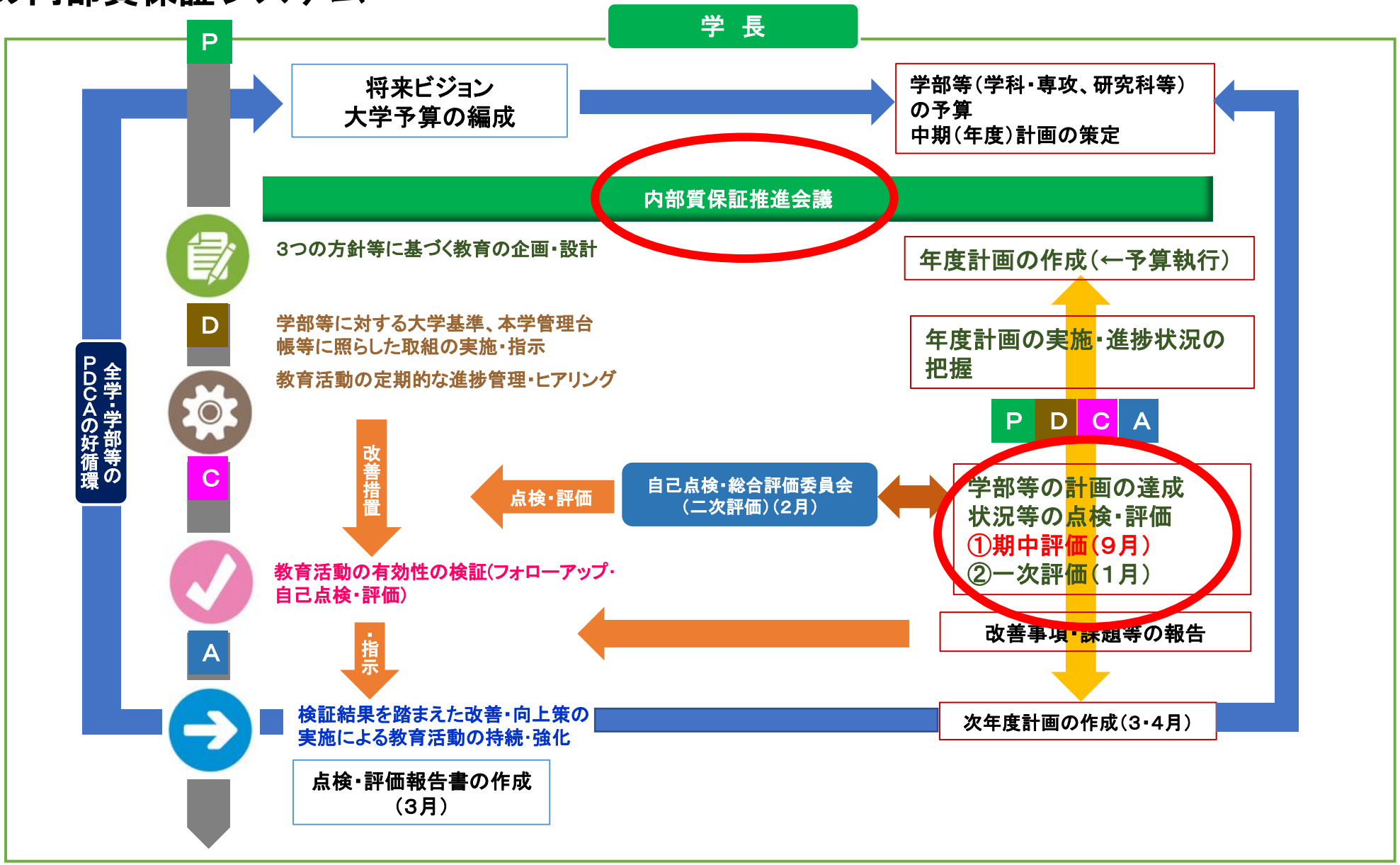
「期中評価」など自己点検・評価体制の整備（2020年）

外部評価委員会の設置・外部評価の受審（2020年）

内部質保証の推進に責任をもつ組織

感恩奉仕
Gratitude and Service

◆全学の内部質保証システム



内部質保証の体制等の仕組み

◆内部質保証推進会議の構成メンバー

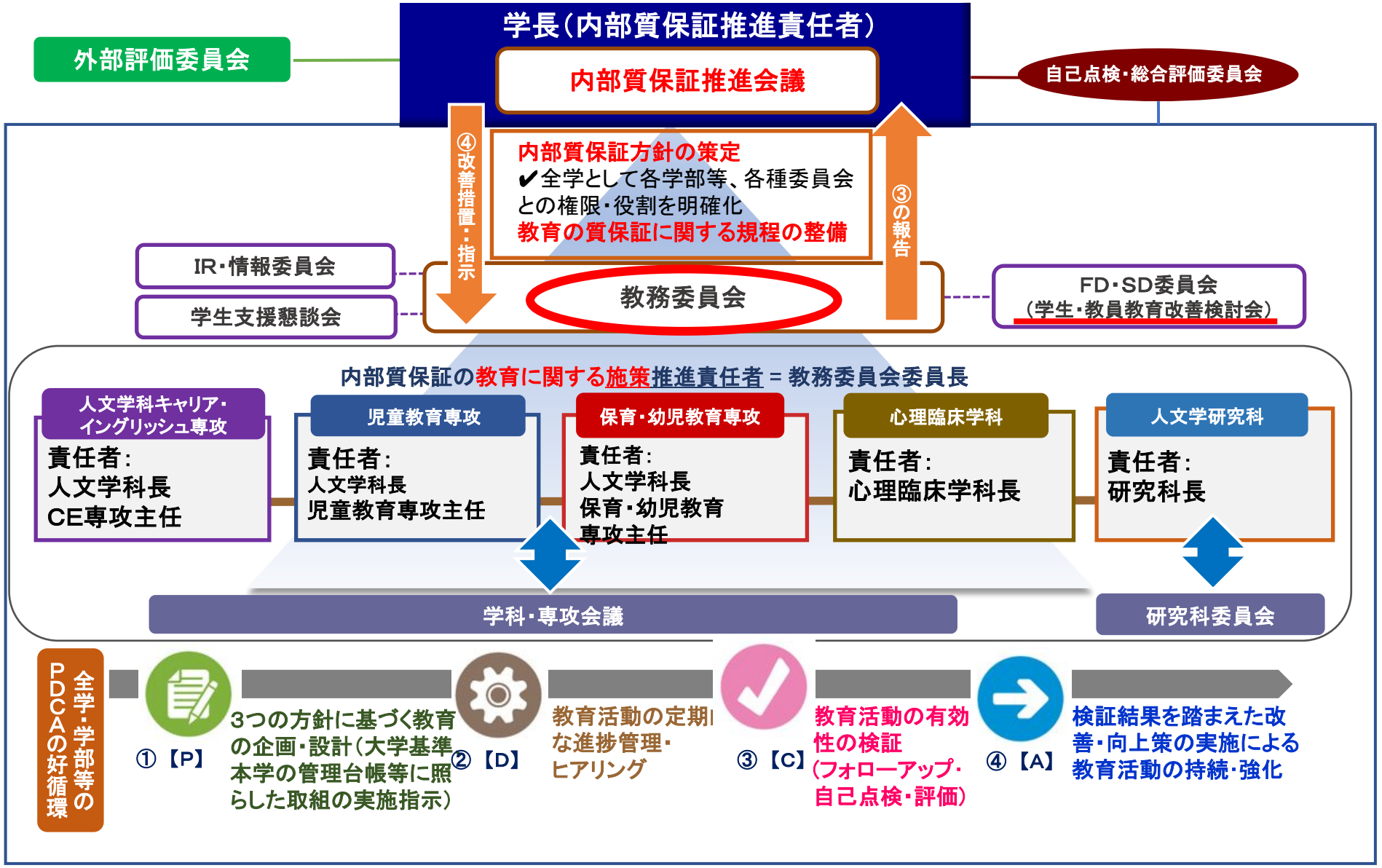
＜2020年＞
学長、学科長、大学院研究科長、学務・入試センター長、学生支援センター長、自己点検・総合評価委員会委員長、IR・情報委員会委員長、FD・SD委員会委員長、事務局長、大学事務部長

＊外部評価委員会からの指摘を受け、公平性・適切性の担保するため構成メンバーを変更

＜2021年＞
学長、副学長、学長補佐、大学院研究科長、学務・入試センター長、学生支援センター長、自己点検・総合評価委員会委員長、IR・情報委員会委員長、FD・SD委員会委員長、事務局長、大学事務部長、その他質保証と関わりの深い部署の長、
学外有識者

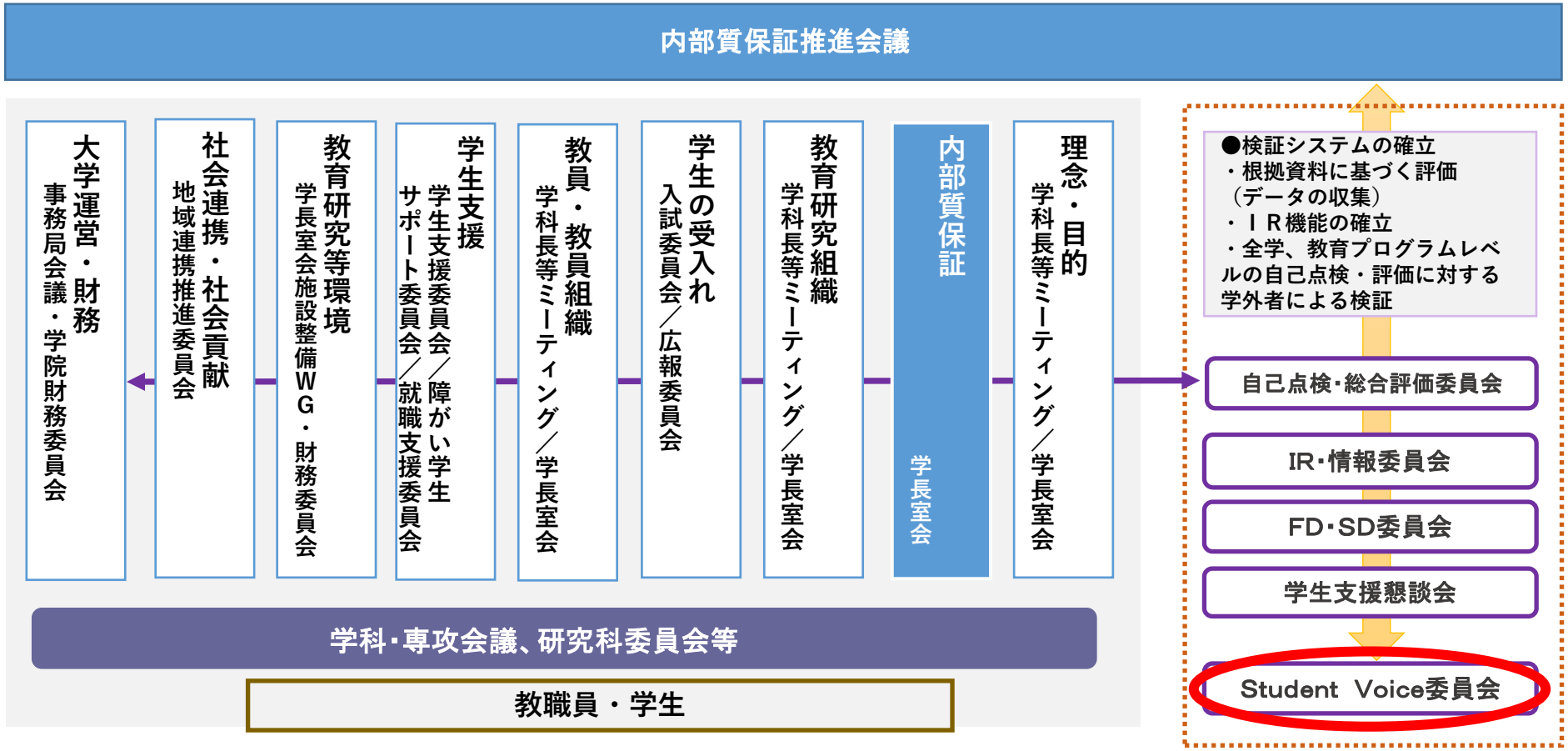
各組織の役割と連携ー教育を中心とした内部質保証システム

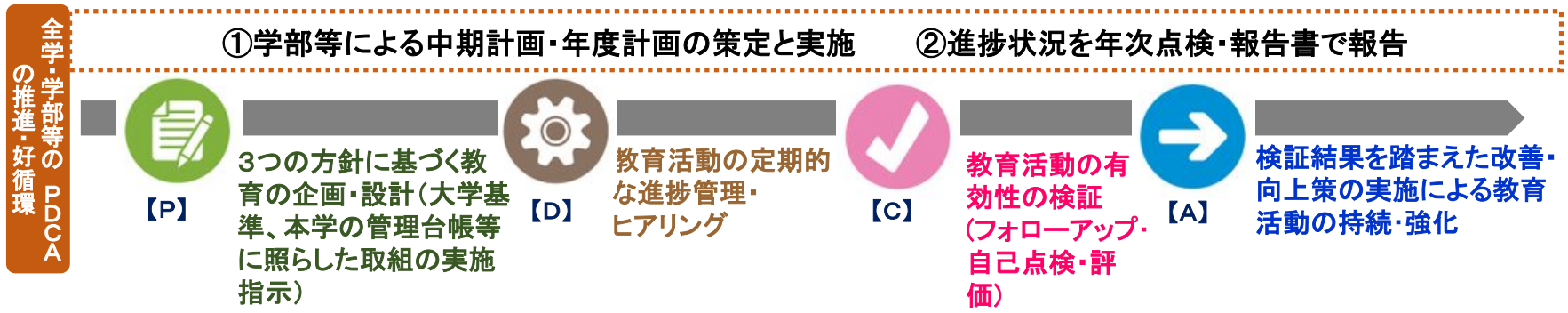
感恩奉仕
Gratitude and Service



各組織の連携と役割－教育の質保証以外の質保証システム

感恩奉仕
Gratitude and Service





1）教育改善・学習成果測定

・アセスメントプラン（学部）の策定（2018年～）
　アセスメント・ポリシー（大学院）の策定（2021年度～）

・学生・教員教育改善検討会、学生FDの実施（2019年～）

・成績評価ガイドラインの作成（2020年～）

・卒業研究ルーブリックの作成（2020年～）

・ティーチング・ポートフォリオの導入（2020年度～）

・学修評価票（2020年～）、学修ポートフォリオの導入（2021年～）

アセスメント指標を活用した内部質保証

感恩奉仕
Gratitude and Service

雇用先等調査
卒業生へのアンケート調査

学部等
- 卒業時調査
- 学生調査
- 休学率
- 退学率
- 就職率

教育課程
- DP到達度（学修評価票）
- 修得単位数
- GPA
- 学生調査
- 資格取得希望調査

科目
- 授業の成績評価
- 成績評価アンケート
- 教職履修カルテ
- 修学ポートフォリオ
- 授業評価アンケート
- 環境アセスメント（面談）

アドミッションポリシー
ディプロマポリシー
カリキュラムポリシー
カリキュラム

全学共通科目 | 全学専門科目 | 資格科目 | 学科・専攻会議

担当科目 | 担当教員

教学改善のための全学組織

教授会

教務委員会

内部質保証推進会議

●検証システムの確立
・根拠資料に基づく評価（データの収集）
・ＩＲ機能の確立
・学習成果の評価
・全学、教育プログラムレベルの自己点検・評価に対する学外者による検証

- 自己点検・総合評価委員会
- IR・情報委員会
- FD・SD委員会
- 学生支援懇談会
- シラバス第三者チェック
- 学生・教員教育改善検討会

全学・学部等のPDCAの推進・好循環

①学部等による中期計画・年度計画の策定と実施　②進捗状況等を年次点検・報告書で報告

【P】 3つの方針に基づく教育の企画・設計（大学基準、本学の管理台帳等に照らした取組の実施指示）

【D】 教育活動の定期的な進捗管理・ヒアリング

【C】 教育活動の有効性の検証（フォローアップ・自己点検・評価）

【A】 検証結果を踏まえた改善・向上策の実施による教育活動の持続・強化

◆学生調査を教育課程へ（2023年度の学科再編）
（IR・情報委員会/FD・SD委員会との連携）

副専攻科目の設置

データサイエンス科目/サービスラーニング科目　の導入

◆Student Voice委員会、学生・教員教育改善検討会
授業評価アンケート

授業評価の在り方、オンライン授業の方法

２）学修評価票・学修ポートフォリオの導入と質保証の取組

◆学習成果の可視化と把握

人文学科キャリアイングリッシュ専攻

学修評価票

＜1年前期修了時＞

学籍番号
1234567
氏名
黒髪　太郎

ディプロマポリシーの達成度

2.2

得点の見方	
4.0～3.0	秀
3.0～2.0	優
2.0～1.0	良
1.0～1.9	可

※GPAの得点とは多少異なります

ディプロマポリシー（学位授与に関する方針）とは

学生に学位を授与する際に大学が掲げる基本的な考え方です。この考え方には卒業要件だけではなく、**大学や学科・専攻が育成しようとする人材像**やその人材に欠かせない**修得すべき資質・能力**が示されています。

学修評価票（本書面）では、GPAのみでは把握することが難しい学科・専攻ごとの修得すべき資質・能力の到達度を、科目と各資質・能力の関連性（カリキュラム・マップ）と科目成績に基づいて算出しています。各資質・能力の到達度を確認して、**振り返りと次段階の学修に向けて参考にしてください。**

※各資質・能力のさらに下層にはその資質・能力を構成する基本的な能力が記載されており、これも科目関連性と科目成績のもと同じように数値化しています。

人文学部の目的

キリスト教主義に沿った人格教育を基に、幅広い教養教育と専門に関する基礎を身に付け、グローバルな視野とボランティア精神を兼ね備えた人材を育成することを目的とする。

人文学科キャリアイングリッシュ専攻の目的

実践的な英語能力、豊かなビジネスの知識や IT スキルを身に付け、国際社会、英語教育等で活躍できる人材を育成する。

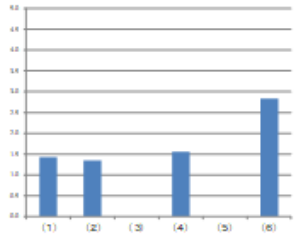
人文学科キャリアイングリッシュ専攻のディプロマポリシー

専門教育科目 1.4									共通教育科目 2.8													
（1）	（2）					（3）			（4）			（5）			（6）							
国際社会や実務で通用する英語運用能力（読む・書く・聞く・話す）を修得し活用できる	グローバルで幅広い視野と深い教養を身につけ、異文化社会の多様性を理解できる					IT技術、情報リテラシーやビジネスに関する知識・情報観、社会人としてのコミュニケーション力を身につけている			自己の意見や考えを積極的かつ適切に他者に対して発言・発信できる			卒業研究を通して、自ら課題を分析し、解決・結論に導く方策を構築できる			広い視野とバランスのとれた判断を可能にする豊かな人間力			教養と専門に関する知識を身につけ、社会のさまざまな分野で活動できる能力				社会の動向に関心を持ち、その変化やニーズに対応できる能力	
1.4		1.4							1.6			2.8										
①語学実践力	②グローバル・コミュニケーション能力	③国際性	④異文化理解	⑤多様性	⑥柔軟な思考	⑦情報活用力	⑧社会性・倫理観	⑨コミュニケーション能力	⑩積極性	⑪情報発信力	⑫表現力	⑬課題発見力	⑭情報取集・分析力	⑮論理的思考	①多面的理解	②論理的思考	③協調性	④基礎的知識	⑤専門的知識	⑥応用実践力	⑦社会情勢理解	⑧生活知識・技術	⑨順応性
1.5	1.5	1.2	1.4		1.4				1.6		1.6				2.6	2.5	3.1	2.9	2.6	3.2	3.5	2.6	2.6

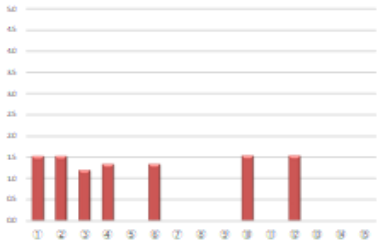
上記（1）～（6）の達成度を参考に、以下にそれぞれ自己評価および来期に向けた目標の記入をしてください。（数値記入）
上記達成度が空欄であっても記入をしてください。自己評価は、上記達成度と異なっても構いません。

（1）	（2）	（3）	（4）	（5）	（6）
自己評価(1～5)	自己評価(1～5)	自己評価(1～5)	自己評価(1～5)	自己評価(1～5)	自己評価(1～5)
目標(1～5)	目標(1～5)	目標(1～5)	目標(1～5)	目標(1～5)	目標(1～5)

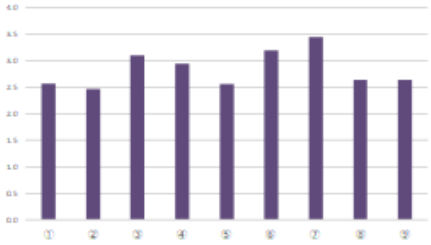
＜ディプロマポリシー到達度＞



＜専門教育科目の到達状況＞



＜共通教育科目の到達度＞



２）学修評価票・学修ポートフォリオの導入と質保証の取組

人文学科キャリアイングリッシュ専攻

学修ポートフォリオ

＜1年前期修了時＞

学 籍 番 号
1234567
氏　　名
黒髪　太郎

学修ポートフォリオの目的

この学修ポートフォリオの目的は、在学時の学びや活動等を記録・蓄積し、皆さんの成長を可視化することです。

学修面・生活面・活動等の目標・計画を立てることで、目的意識を持って有意義な大学生活を送ることができ、未来の自分を思い描くことで、今何をすべきかを考えます。

また、この記録の蓄積は就職活動の際、大学で何を学んだか、そのときにどのようなことを考えたか等、自分自身を振り返る参考資料となり、履歴書作成や面接試験対策に役立ちます。

自分自身のために、積極的に記入をしましょう。

①～④の項目については、全員が必ず記入してください。

①学修（授業や履修、成績等）に関する 今学期の目標や、前学期に立てた目標に対する振り返り	②大学生活に関する 今学期の目標や、前学期に立てた目標に対する振り返り

③目標とする職業や資格等	④外部試験結果（TOEIC、各種検定等）

⑤以降の項目については、必須ではありませんので、記入できる範囲で記入してください。

⑤課外活動への参加・取組み	⑥最近自分が成長したと感じたこと	⑦最近の興味や関心

⑧自分の長所・短所	⑨最近の健康状態	⑩相談したいこと　その他

アドバイザーコメント
氏名

今後に向けて①

1）内部質保証体制構築への取組

・内部質保証体制の継続的な見直し

・内部質保証体制の機能強化とエビデンスの蓄積

2）学習成果の把握と可視化

・学修評価票と学修ポートフォリオの継続的な見直しと効果測定

・ディプロマ・サプリメントの導入に向けた取組

今後に向けて②

感恩奉仕
Gratitude and Service

3）大学運営への学生の参画

・小規模校ならではの学生と教職員の距離の近さ

・Student Voice委員会での取組

・学生・教員教育改善検討会、学生FDの取組

4）きめ細やかな学生支援

・アドバイザー、学生支援課、教務課の連携

・学生支援懇談会の実施

・障がいのある学生への学修支援

大学評価の申請、実地調査に向けた準備

感恩奉仕
Gratitude and Service

- 認証評価WGの設置（2019年～）
- 内部質保証推進に係る体制整備、規程の見直し（2019年～）
- 他大学の取組事例等のリサーチ（他大学に依頼）
- 外部評価委員会による外部評価受審（2020年～）
- 外部評価委員会からの指摘への対応
- 教職員に向けたFD・SD研修会の実施
  （管理台帳記載方法/内部質保証システムの説明等）

大学評価の申請、実地調査に向けた準備

感恩奉仕
Gratitude and Service

◆点検・評価報告書の作成、根拠資料の準備における工夫点

- 認証評価WG内で原案を作成（2019年～2020年）
- 自己点検・評価報告書暫定版について事前相談
  点検・コメントをいただく（2021年）（大学基準協会/他大学）
- 報告書原案を基に担当者で加筆・修正、教授会、学長室会
  での確認（2021年）→提出（2022年3月）
- 評価の視点からこれまでの大学の取組を振り返る（2021年～）
- より説明に適した根拠資料の選択（2021年～）
- 実地調査（2022年10月末）

◆実地調査に向けた準備について（質問事項/面談等への準備）

・実地調査の質問事項/面談等の振り分けは、学長補佐（点検・評価）、学長室担当事務（事務部長）が実施。

・事前に通知されている「事前質問」をもとに回答担当者を設定依頼した。

・面談者は内部質保証推進会議の構成員、関係委員長、専攻主任に当日出勤してもらい、対応できるようにした。

・学生は、対象となる学生を各所管に確認し、依頼。

終わりに

◆これから評価を受ける方へ

・認証評価は改善と向上への良い機会

・内部質保証への学内意識の醸成と課題

・担当者の苦労

・次期認証評価に向けた継続した取組

あえて少人数、やはり教育力

Kyushu Lutheran College